

石川。ピカピカ大作戦

令和6年10月
南あわじ市立
沼島小中学校



未来へ希望を♡

海ごみアートを共同制作

沼島小学校・沼島中学校と三崎中学校で、海のごみを用いて作る「SDG's海ごみアート」を制作した。
三崎中学校三年生の「虹色の足をもったタコと海の守り神であるカメと地球を笑顔にしたい」という思いが込められている。また、タコとカメの周りには、小さな魚などの海の生き物が泳いでいるデザインとなっている。
制作を指導してくださったのは、珠洲市で講演会やSDG's海ごみアートの制作を行っている竹下あづささん。竹下さんは小学校の時に神戸に住んでいた、阪神・淡路大震災を経験しているという。
児童生徒は、三崎中の子どもたちとの交流だけでなく、海洋ごみについても関心を持つことが出来る機会にもなった。共同アート制作の前に行われた海岸でのごみ拾いは、分別をしながら交流する様子が見られた。
また、活動の後には、沼島中学校の卒業生が作った歌『ZUBOXO』を歌い、明るい未来に向かって頑張っている、繋がっている、という思いを伝えた。
この活動が地球の環境を良くしていく事、石川県の人々に元気を与えられるきっかけとなる事を願う。

表敬訪問

沼島小中学校の代表が、珠洲市役所を表敬訪問し、四月から集めた約二三十万円の募金を届けた。中学三年生の「私たちの希望となる活動に使ってください」と述べた。



みさき小学校との交流会・仮設住宅訪問

表敬訪問の後、沼島小学校の児童は、みさき小学校の児童と交流し、グラウンドに建てられた仮設住宅への訪問を行った。
交流会では、互いの学校紹介の後、ゲームや肩をくんで合唱し、体育館に笑顔が溢れた。兵庫県の南端にある沼島と、能登半島の東端の子どもたちが災害を乗り越えようと交流する姿は、回復した天気同様、希望の光が広がっていくようであった。昼食後、児童たちは仮設住宅を回り、南あわじ市のブランド玉ねぎを配布し、仮設住宅で暮らす方々と交流した。



石川県で家が潰れていてショックだった。小学校の子と仲良くすることができてよかった。元気を送ることができた。



海岸清掃



家が潰れて悲しいと思うけど、自分たちに優しくしてくれてよかった。



みさき小学校の児童に笑顔を送ることができてよかったです。

教訓を生かす

須須神社

須須神社の猿女さんにお話を聞かせて頂いた。珠洲市では、小さい地震は今までもよく起きていたけれど、一月一日に起きた能登半島地震はとてつもない大きな揺れだった。猿女さんは「揺れる時間がとても長く感じた」「キリコを入れている建物がプリンのように見えた」とおっしゃっていた。



建物の中にあった日本一高いだんじり（キリコ）

地震が起きた後、猿女さんはお正月に参拝に来ていた人々を誘導して高台に避難した。猿女さんたちは、須須神社と集会所で避難生活を送った。水が少なかったから、「お風呂に入るのは一月十七日だった。道路も泥がたかさんあり、車が通れなくなっていた。しかし、夜の間にずつと泥を片づけてくれた方がいて、その人のおかげで次の朝には車が通れるようになった」とおっしゃっていた。



須須神社の様子

ピカピカ大作戦を終えて

三崎中学校で、地震が起きていて、ちゃんとした生活ができていないのに、自分に優しく接してくれた事が嬉しかったです。



三崎中学校に行って、中学生と、色々交流ができて楽しかった。生活が大変なのに、笑顔で接してくれたことがとても嬉しかったです。



色々活動している時に石川の皆さんから、ありがとうと言われたことが嬉しかったです。早く復興してほしいです。



沼島小中学校で生活に困っている人々を笑顔にする。中学生と交流ができて嬉しい。色々な活動ができて楽しかったです。



まだ壊れている家や建物があつたので、早く復興してほしいです。自分ができる事ができて良かったです。小学校と交流できて楽しかったです。これからも頑張ります。



今回の経験を通して、石川の人は、被災者なのに優しく接してくれて、とても嬉しかったです。早く復興してほしいです。この経験をこれから生活に活かしていきたいです。

